

## ルツ記

## 第一章

「さばきづかさが世を治めているころ、国に飢きんがあったので、ひとりの人がその妻とふたりの男の子を連れてユダのベツレヘムを去り、モアブの地へ行ってそこに滞在した。二その人の名はエリメレク、妻の名はナオミ、ふたりの男の子の名はマロンとキリオンといい、ユダのベツレヘムのエフラテびとであった。彼らはモアブの地へ行って、そこにおったが、三ナオミの夫エリメレクは死んで、ナオミとふたりの男の子が残された。四ふたりの男の子はそれぞれモアブの女を妻に迎えた。そのひとりの名はオルパといい、ひとりの名はルツといった。彼らはそこに十年ほど住んでいたが、五マロンとキリオンのふたりもまた死んだ。こうしてナオミはふたりの子と夫とに先だたれた。

六その時、ナオミはモアブの地で、主がその民を顧みて、すでに食物をお与えになつてゐることを聞いたので、その嫁と共に立つて、モアブの地からふるさとへ帰ろうとした。七そこで彼女は今いる所を出立し、ユダの地へ帰ろうと、ふたりの嫁を連れて道に進んだ。八しかしナオミはふたりの嫁に言った、「あなたがたは、それぞれ自分の母の家に帰って行きなさい。あなたがたが、死んだ

ふたりの子とわたしに親切をつくしたように、どうぞ、主があなたがたに、いつくしみを賜わりますよう。九どうぞ、主があなたがたに夫を与え、夫の家で、それぞれ身の落ち着き所を得させられるように」。こう言つて、ふたりの嫁に口づけしたので、彼らは声をあげて泣き、一ナオミに言った、「いいえ、わたしたちは一緒にあなたの民のところへ帰ります」。二しかしナオミは言った、「娘たちよ、帰って行きなさい。どうして、わたしと一緒に行くかういふのですか。あなたがたの夫となる子がいまだわたしの胎内にいると思ふのですか。三娘たちよ、帰って行きなさい。わたしは年をとつてゐるので、夫をもつことはできません。たとい、わたしが今夜、夫もち、また子を産む望みがあるとしても、四そのためにあなたがたは、子どもの成長するまで待つてゐるつもりなのですか。あなたがたは、そのために夫をもたずにゐるつもりなのですか。娘たちよ、それはいけません。主の手がわたしに臨み、わたしを責められたことで、あなたがたのために、わたしは非常に心を痛めてゐるのです」。五彼らはまた声をあげて泣いた。そしてオルパはそのしゅうとめに口づけしたが、ルツはしゅうとめを離れなかつた。

六そこでナオミは言った、「ごらんなさい。あなたの相嫁は自分の民と自分の神々のもとへ帰って行きました。あなたがたも相嫁のあとについて帰りなさい」。七しかしル

ツは言った、「あなたを捨て、あなたを離れて帰ることをわたしに勧めないでください。わたしはあなたの行かれる所へ行き、またあなたの宿られる所に宿ります。あなたの民はわたしの民、あなたの神はわたしの神です。七、あなたの死なれる所でわたしも死んで、そのかたわらに葬られます。もし死に別れでなく、わたしがあなたと別れるならば、主よ、どうぞわたしをいくえにも罰してください」。八、ナオミはルツが自分と一緒にいこうと、固く決心しているのを見たので、そのうえ言うことをやめた。

九、そしてふたりは旅をつづけて、ついにベツレヘムに着いた。彼らがベツレヘムに着いたとき、町はこぞって彼らのために騒ぎたち、女たちは言った、「これはナオミですか」。二〇、ナオミは彼らに言った、「わたしをナオミ（楽しみ）と呼ぶに、マラ（苦しみ）と呼んでください。なぜなら全能者がわたしをひどく苦しめられたからです。二一、わたしは出て行くときは豊かでありましたが、主はわたしをから手で帰されました。主がわたしを悩まし、全能者がわたしに災をくだされたのに、どうしてわたしをナオミと呼ぶのですか」。

二三、こうしてナオミは、モアブの地から帰った嫁、モアブの女ルツと一緒に帰ってきて、大麦刈の初めにベツレヘムに着いた。

第二章 「さてナオミには、夫エリメレクの一族

で、非常に裕福なひとりの親戚があつて、その名をボアズといった。二、モアブの女ルツはナオミに言った、「どうぞ、わたしを畑に行かせてください。だれか親切な人が見当るならば、わたしはその方のあとについて落ち穂を拾います」。ナオミは彼女に「娘よ、行きなさい」と言ったので、ミルツは行つて、刈る人たちのあとに従ひ、畑で落ち穂を拾ったが、彼女ははからずもエリメレクの一族であるボアズの畑の部分にきた。四、その時ボアズは、ベツレヘムからきて、刈る者どもに言った、「主があなたがたと共におられますように」。五、ボアズは刈る人たちを監督しているしもべに言った、「これはだれの娘ですか」。六、刈る人たちは監督しているしもべは答えた、「あれはモアブの女で、モアブの地からナオミと一緒に帰ってきたのですが、七、彼女は『どうぞ、わたしに、刈る人たちのあとについて、束のあいだで、落ち穂を拾い集めさせてください』と言いました。そして彼女は朝早くきて、今まで働いて、少しのあいだも休みませんでした」。

八、ボアズはルツに言った、「娘よ、お聞きなさい。ほかの畑に穂を拾いに行つてはいけません。またここを去つてはなりません。わたしのところで働く女たちを離れないで、ここにいなさい。九、人々が刈りとっている畑に目をとめて、そのあとについて行きなさい。わたしは若者たちに命じて、あなたのじやまをしないようにと、言つ

ておいたではありませんか。あなたがかわく時には水がめのところへ行つて、若者たちのくんだのを飲みなさい。」「彼女は地に伏して拝し、彼に言った、「どうしてあなたは、わたしのような外国人を顧みて、親切にしてくださいるのですか。」「ボアズは答えて彼女に言った、「あなたの夫が死んでこのかた、あなたがしゅうとめにつくしたと、また自分の父母と生れた国を離れて、かつて知らなかった民のところに来たことは皆わたしに聞えました。」「三どうぞ、主があなたのしたことに報いられるように。」「どうぞ、イスラエルの神、主、すなわちあなたがその翼の下に身を寄せようとしてきた主からじゅうぶんの報いを得られるように。」「三彼女は言った、「わが主よ、まことにありがとうございます。わたしはあなたのはしためのひとりにも及ばないのに、あなたはこんなにわたしを慰め、はしためにねんごろに語られました。」「四食事の時、ボアズは彼女に言った、「ここへきて、パンを食べ、あなたの食べる物を酢に浸しなさい。」「彼女が刈る人々のかたわらにすわったので、ボアズは焼麦を彼女に与えた。彼女は飽きるほど食べて残した。」「五そして彼女がまた穂を拾おうと立ちあがったとき、ボアズは若者たちに命じて言った、「彼女には束の間でも穂を拾わせなさい。とがめてはならない。」「六また彼女のために束からわざと抜き落しておいて拾わせなさい。しかつてはならない。」「七

七こうして彼女は夕暮まで畑で落ち穂を拾った。そして拾った穂を打つと、大麦は一エバほどあった。」「八彼女はそれを携えて町にはいり、しゅうとめにその拾ったものを見せ、かつ食べ飽きて、残して持ちかえったものを取り出して与えた。」「九しゅうとめは彼女に言った、「あなたは、きょう、どこで穂を拾いましたか。どこで働きましたか。あなたがそのように顧みてくださったかたに、どうか祝福があるように。」。そこで彼女は自分がだれの所で働いたかを、しゅうとめに告げて、「わたしが、きょう働いたのはボアズという名の人の所です」と言った。」「十ナオミは嫁に言った、「生きてゐる者をも、死んだ者をも、顧みて、いつくしみを賜わる主が、どうぞその人を祝福されますように。」。ナオミはまた彼女に言った、「その人はわたしたちの縁者で、最も近い親戚のひとりです。」「十一モアブの女ルツは言った、「その人はまたわたしに『あなたはわたしのところの刈入れが全部終るまで、わたしのしもべたちのそばについていなさい』と言いました。」「十二ナオミは嫁ルツに言った、「娘よ、その人のところで働く女たちと一緒に出かけるのはけっこうです。そうすればほかの畑で人にいじめられるのを免れるでしょう。」「十三それで彼女はボアズのところで働く女たちのそばについていて穂を拾い、大麦刈と小麦刈の終るまでそうした。こうして彼女はしゅうとめと一緒に暮した。」「十四時にしゅうとめナオミは彼女に言っ



た、「娘よ、わたしはあなたの落ち着き所を求めて、あなたをしあわせにすべきではないでしょうか。二あなたが一緒に働いた女たちの主人ボアズはわたしたちの親戚ではありませんか。彼は今夜、打ち場で大妻をおおぎ分けます。三それであなたは身を洗って油をぬり、晴れ着をまとって打ち場に下って行きなさい。ただ、あなたはその人が飲み食いを終るまで、その人に知られてはなりません。四そしてその人が寝る時、その寝る場所を見定め、はいつて行って、その足の所をまくって、そこに寝なさい。彼はあなたのすべきことを知らせるでしょう。五ルツはしゅうとめに言った、「あなたのおっしやることを皆いたしましょう」。

六こうして彼女は打ち場に下り、すべてしゅうとめが命じたとおりにした。七ボアズは飲み食いして、心をたのしませたあとで、妻を積んである場所のかたわらへ行つて寝た。そこで彼女はひそかに行き、ボアズの足の所をまくって、そこに寝た。八夜中になって、その人は驚き、起きかえって見ると、ひとりの女が足のところに寝ていた。九「あなたはだれですか」と言うと、彼女は答えた、「わたしはあなたのしたためルツです。あなたのすそで、はしためをおおってください。あなたは最も近い親戚です」。一〇ボアズは言った、「娘よ、どうぞ、主があなたを祝福されるように。あなたは貧富にかかわらず若い人に従い行くことはせず、あなたが最後に示したこの親切

は、さきに示した親切にまさっています。二それで、娘よ、あなたは恐れるにおよびません。あなたが求めることは皆、あなたのためにいたしましょう。わたしの町の人々は皆、あなたがりっぱな女であることを知っているからです。三たしかにわたしは近い親戚ではありませんが、わたしよりも、もっと近い親戚があります。四今夜はここにどまりなさい。朝になって、もしその人が、あなたのために親戚の義務をつくすならば、よろしい、その人にさせなさい。しかし主は生きておられます。その人が、あなたのために親戚の義務をつくすことを好まないならば、わたしはあなたのために親戚の義務をつくしましょう。朝までここにおやすみなさい」。

五ルツは朝まで彼の足のところに寝たが、だれか彼の見分け難いところに起きあがった。それはボアズが「この女の打ち場にきたことが人に知られてはならない」と言ったからである。六そしてボアズは言った、「あなたの着る外套を持ってきて、それを広げなさい」。彼女がそれを広げると、ボアズは大妻六オメルをはかって彼女に負わせた。彼女は町に帰り、七しゅうとめのところへ行くと、しゅうとめは言った、「娘よ、どうでしたか」。そこでルツはその人が彼女にしたことをことごとく告げて、八「言った、あのかたはわたしに向かって、から手で、しゅうとめのところへ帰ってはならないと言って、この大妻六オメルをわたしにくださいました」。九しゅうと

めは言った、「娘よ、この事がどうなるかわかるまでお待ちなさい。あの人は、きょう、その事を決定しなければ落ち着かないでしょう」。

#### 第　四　章　一　ボアズは町の門のところへ上って

いって、そこにすわった。すると、さきにボアズが言った親戚の人が通り過ぎようとしたので、ボアズはその人に言った、「友よ、こちらへきて、ここにおすわりください」。彼はきてすわった。二ボアズはまた町の長老十人を招いて言った、「ここにすわりください」。彼らがすわった時、三ボアズは親戚の人に言った、「モアブの地から帰ってきたナオミは、われわれの親族エリメレクの地所を売ろうとしています。四それでわたしはそのことをあなたに知らせて、ここにすわっている人々と、民の長老たちの前で、それを買いなさいと、あなたに言おうと思いましたが、もし、あなたが、それをあがなおうと思われるならば、あがなってください。しかし、あなたがそれをあがなわないならば、わたしにそう言って知らせてください。それをあがなう人は、あなたのほかにはなく、わたしはあなたの次ですから」。彼は言った、「わたしがあがないます」。五そこでボアズは言った、「あなたがナオミの手からその地所を買う時には、死んだ者の妻であつたモアブの女ルツをも買って、死んだ者の名を起してその嗣業を伝えなければなりません。六その親戚の人は言った、「それでは、わたしにはあがなうことができま

せん。そんなことをすれば自分の嗣業をそこないます。あなたがわたしに代って、自分であがなってください。わたしはあがなうことができませんから」。

七むかしイスラエルでは、物をあがなう事と、権利の譲渡について、万事を決定する時のならわしはこうであつた。すなわち、その人は、自分のくつを脱いで、相手の人に渡した。これがイスラエルでの証明の方法であつた。八そこで親戚の人がボアズにむかい「あなたが自分であがないなさい」と言って、そのくつを脱いだので、九ボアズは長老たちとすべての民に言った、「あなたがたは、きょう、わたしにエリメレクのすべての物およびキリオンとマロンのすべての物をナオミの手から買いとつた事の証人です。一〇またわたしはマロンの妻であつたモアブの女ルツをも買って、わたしの妻としました。これはあの死んだ者の名を起してその嗣業を伝え、死んだ者の名がその一族から、またその郷里の門から断絶しないようにするためです。きょうあなたがたは、その証人です。二すると門にいたすべての民と長老たちは言った、「わたしたちは証人です。どうぞ、主があなたの家にはいる女を、イスラエルの家をたてたラケルとレアのふたりのようにされますよう。どうぞ、あなたがエフラタで富を得、ベツレヘムで名を揚げられますように。三どうぞ、主がこの若い女によってあなたに賜わる子供により、あなたの家が、かのタマルがユダに産んだベレツの

